

それから左側にある二つの石祠には、「菊王森正一位稲荷大神璽」「正一位菊之森稲荷大璽」とそれぞれ刻まれている。いずれも、明治三十九年から四十三年代である。

境内には四基の常夜燈が寄進されているが、最も古いのは天保九年（一八三八）戊戌九月吉日、施主は北村中である。

また、多くの石像、石塔の中には宝暦十二年（一七六二）に建立された村地藏さんもある。

もともと北之森お稲荷さんは嘉瀬川改修以前は、堤防下にお祀りしてあった。その昔、大立野北にも漁業をする人が多く、船出の行き帰りに北之森さんを拝み、航海の安全、大漁を祈念した。

旧暦一月八日がお祭りで、「千里眼」さんの神事後、おこもりをした。広場では、小屋掛けをして芝居なども催されたこともある。



北之森稲荷

### 三 その他の宗教

#### 善隣会佐賀教会 久保田町大立野東

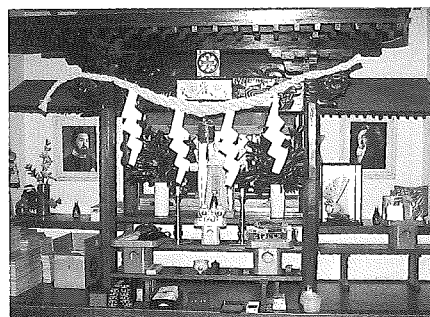
善隣会の本部は現在、福岡県の筑紫野市原田にある。その発祥の地は久保田町の大立野東といわれている。

この大立野東で生まれた力久辰齋たつきが、昭和二十二年（一九四七）に多久市筋原で立教。この人が善隣会の教祖（御神尊様）となった。

その後、本拠を神埼郡三田川町、佐賀市水ヶ江に移転したのち、昭和三十一年（一九五六）に筑紫野市原田に本部を構え、現在に至っている。

久保田町大立野の生家は、現在、善隣会佐賀教会となっており、西岡千代子氏が世話役をしている。

久保田の教会にも多くの参拝者があるといわれている。



佐賀教会の祭壇

# 民俗



花嫁の道具運び風景 (昭和10年頃 搦東 大島トシ子氏提供)

久保田町の寺社分布図

